新花巻図書館
設計に関する市民説明会資料

生涯学習部新花巻図書館整備室
2026.10

これまでの経過

- **「新花巻図書館整備基本計画」を策定**

  市民ワークショップや基本計画試案検討会議、建設場所に関する市民会議を経て、教育委員会で基本計画議決（令和7年5月19日）

- **基本・実施設計補正予算議決（令和7年6月定例会）**

  ・基本・実施設計の2年度にわたる予算
  ・設計者を全国から公募するための予算

- **基本・実施設計業務の公募プロポーザル、全国から61者の応募。「昭和設計・tデ・山田紗子建築設計事務所共同企業体」と契約（令和8年1月7日付）**

  契約期間：令和8年1月8日～令和9年3月19日
  契約金額：3億7,092万円（令和7・8年度）

新花巻図書館整備の基本方針

1　郷土の歴史と独自性を大切にし、豊かな市民文化を創造する図書館

- 花巻市は輝かしい功績を遺した数多くの先人（宮沢賢治・萬鉄五郎等）を輩出
- 先人達を顕彰し、次の時代を担う子ども達にその精神を継承
- 郷土を愛する心を育むことができるよう郷土資料や先人の資料の充実を図る

2　すべての市民が親しみやすく使いやすい図書館

- 幼児、子ども、高齢者、障がい者、すべての市民が気軽に利用でき、親しみやすく使いやすい
- 自然や周辺に調和した明るくゆったりしたスペースとし、読書だけでなく、くつろぎと交流の場

3　暮らしや仕事、地域の課題解決に役立つ知の情報拠点としての図書館

- 市民の読書や生涯学習を支援するだけでなく、情報を得る場、生活、仕事、教育、産業など各分野の課題解決を図る図書館であることが求められている
- 広い分野にわたる資料やレファレンス（検索・相談）機能の充実を図る

基本設計の検討

- **基本設計に関するワークショップ**

これまで図書館整備に関わっていただいた方や、公募市民の方などに、意見を伺い、基本設計に反映させることを目的に実施。

令和8年2月21日（第1回：58名参加）
3月　8日（第2回：61名参加）
6月21日（第3回：41名参加）



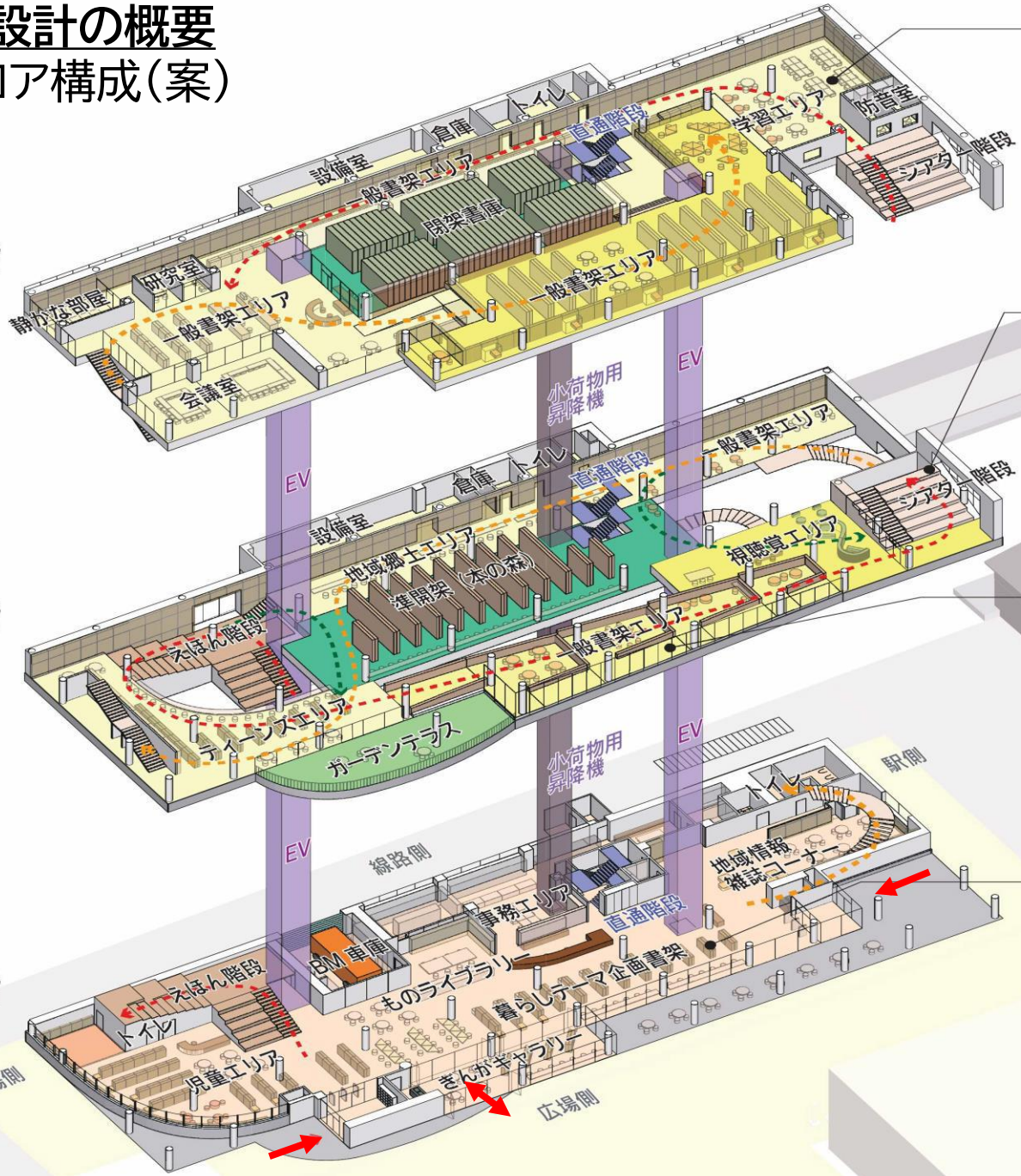
- **新花巻図書館まちなか設計拠点“プレ室”開設（令和8年4月28日）**

設計事務所の分室。
地域の人に新図書館の設計状況を紹介するとともに、新図書館に関する市民の活動拠点としての役割も担える場所として設計者が開設。



基本設計の概要

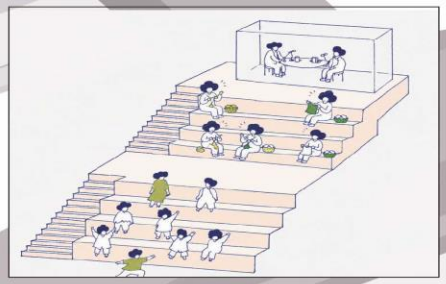
フロア構成（案）



3 階には多様な音環境の学習スペースを設置



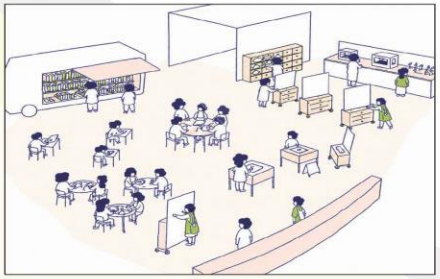
シアター階段では上映会やイベントも可能



2 階のスロープに沿って展示や会合も展開



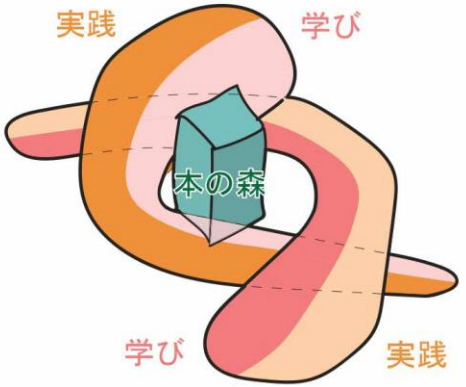
1 階は可動什器で様々な使い方に柔軟に対応



設計のコンセプト

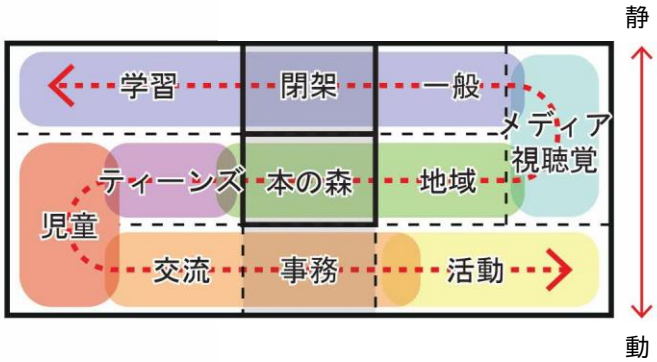
● 学びと実践の立体街路

・「学び」と「実践」が連なる立体街路で各階を連続的に繋ぐ
・立体街路をぐるりと巡っていくことで花巻の文化を学べる
・中心にある本の森が知を深め、様々な分野を結びつける
・各スペースが数珠状に連なり重なり交わり、コモンを生む
・学びを深め、創造を生み、人と情報が行き交う広場へ



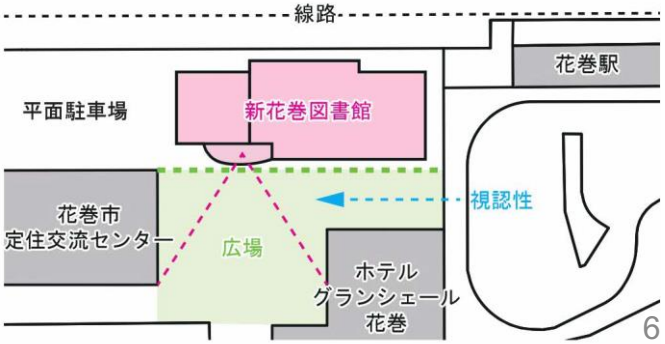
● 静と動の選択性がある断面構成

・静と動のグラデーションの中で、自由に居場所を選択できる断面構成
・広場や駅と連続する地上階は、活気のあるゾーンに
・上階に上がって行けば行くほど、静かで落ち着いたゾーンに



● 広場の活動を促進する配置計画

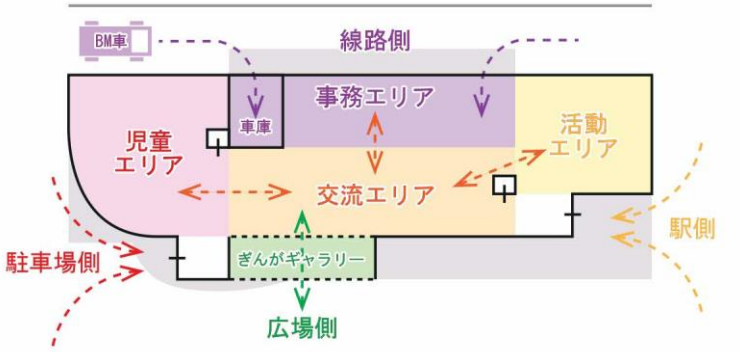
・広場で行われてきた多くのイベントに支障がないよう配置
・駅側から花巻市定住交流センターへの視認性を確保
・広場の正面になるようテラスを設置し、ステージとして利用可能に



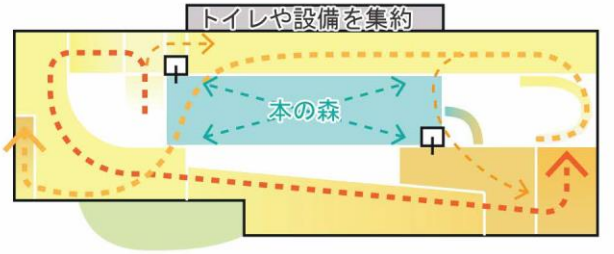
基本計画に基づくコンセプト

「新たな　あかり　ともす　広場」

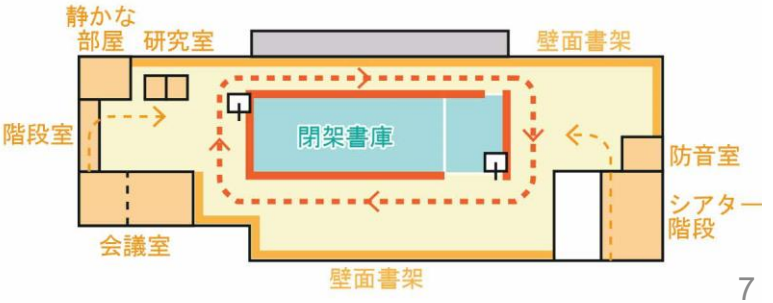
- **1階　人と情報が行き交い、まちへにぎわいが広がる出会いと交流のフロア**
  - ・各所に目が届く線路側中央に事務エリアを集約
  - ・児童エリアは、親子でも立ち寄りやすいよう駐車場側に配置
  - ・駅側には活気があふれる活動エリア
  - ・中央は交流エリアとし、広場に面してぎんがギャラリーを設ける
    ことで、広場と一体的に利用することが可能に



- **2階　まちの過去と未来をつなぎ、創造を育む探求のフロア**
  - ・上層階へ自然と上がっていけるよう立体的な街路のような構成に
  - ・中央に本の森を設け、そのまわりを巡ることで花巻の文化を学べる
  - ・3つの吹抜けのまわりにできる個性豊かな居場所を自由に選択可能
  - ・トイレや設備など機能的な場所は線路側にまとめ、合理的な配置に



- **3階　学びを深め、じっくりひたる知のフロア**
  - ・閉架書庫を中心に配置し、周囲を回遊できる構成に
  - ・外壁沿いにも壁面書架が連なり、本に包まれ落ち着いた環境
  - ・周囲には静かに集中して勉強や研究ができる個室も設置
  - ・どこにいても本の物量を知の財産として感じられる配置





※現時点でのイメージであり、配色等は実施設計で検討します



※現時点でのイメージであり、配色等は実施設計で検討します



※現時点でのイメージであり、配色等は実施設計で検討します



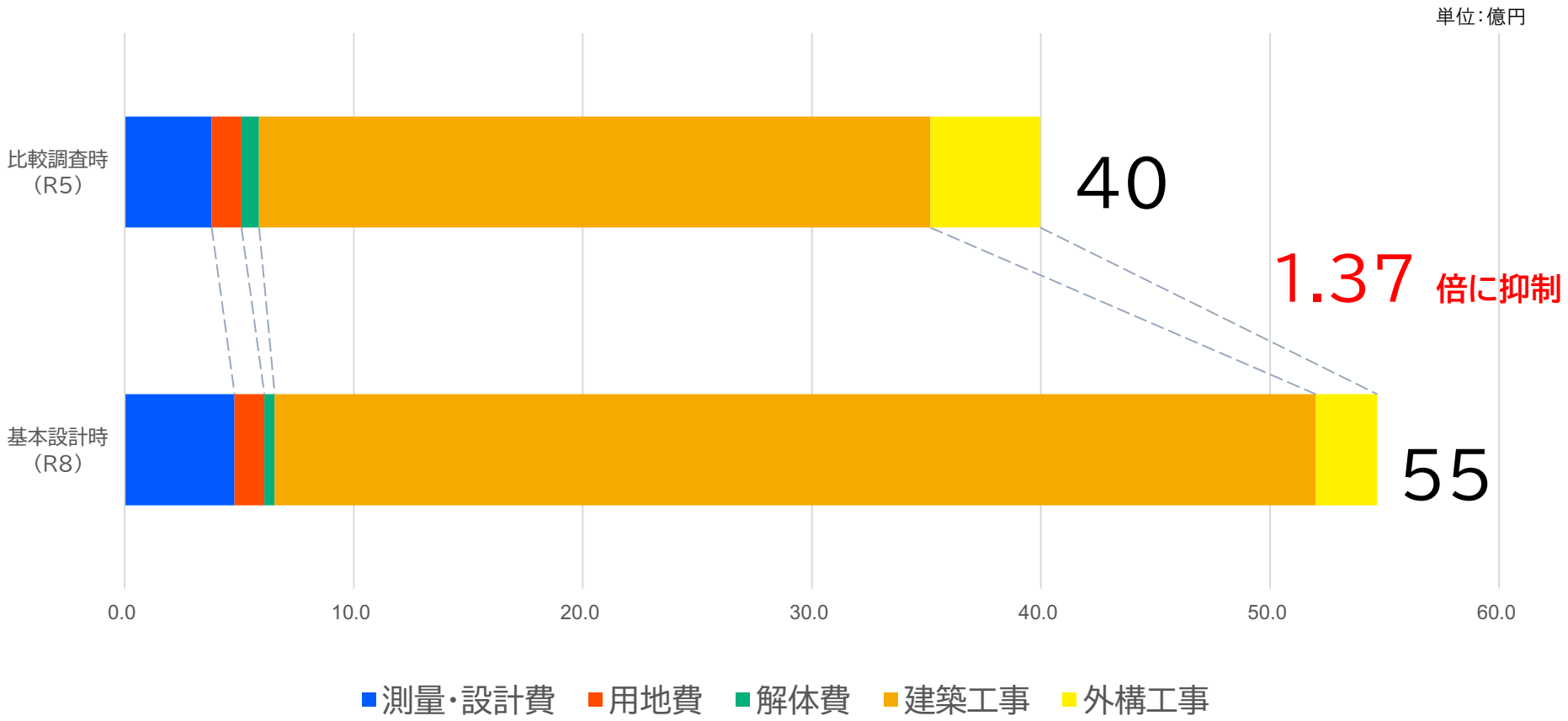
※現時点でのイメージであり、配色等は実施設計で検討します



※現時点でのイメージであり、配色等は実施設計で検討します

概算事業費

55億円(うち 建築工事費:45億円):令和8年度基本設計時



※比較調査とは、令和5年度に専門業者に委託して実施した「新花巻図書館建設候補地比較調査」で、建設候補地(花巻駅前と総合花巻病院跡地)ごとに事業費を算出。過去(2016-2023年)の同規模図書館の工事単価などを文献調査により概略的に算出したもので、花巻駅前に建設した場合の概算事業費は39.9億円(うち 建築工事費28.8億円)。

新花巻図書館整備基本計画からの見直しなど

- 延床面積の縮小

  基本計画　延床面積：約4,500㎡ ➡ 基本設計　延床面積：約4,200㎡

- 全体の蔵書数の見直し

  ・計画時：約70万冊（「蔵書数等については今後資料のデジタル化及び財政状況についても考慮しながら引き続き検討します。」としていた）

  ・日本図書館協会が定めた「公立図書館の任務と目標（2023改訂）」の基準や「花巻市人口ビジョン」花巻地域の令和12年の目標人口62,029人をもとに蔵書数を再考　➡ 設計時：約40万冊

（参考）

	現在	開館時	将来
蔵書数	約19.9万冊	約21万冊	約40万冊

※開館に向けて、情報が古い資料の入替えや新規購入等を行う

- 事業費削減のため検討

  ・広場で行われるイベントに配慮し、広場の工事は行わない。

  ・建物の高さを抑え、メンテナンスしやすい外壁。

  ・シンプルな構造計画。

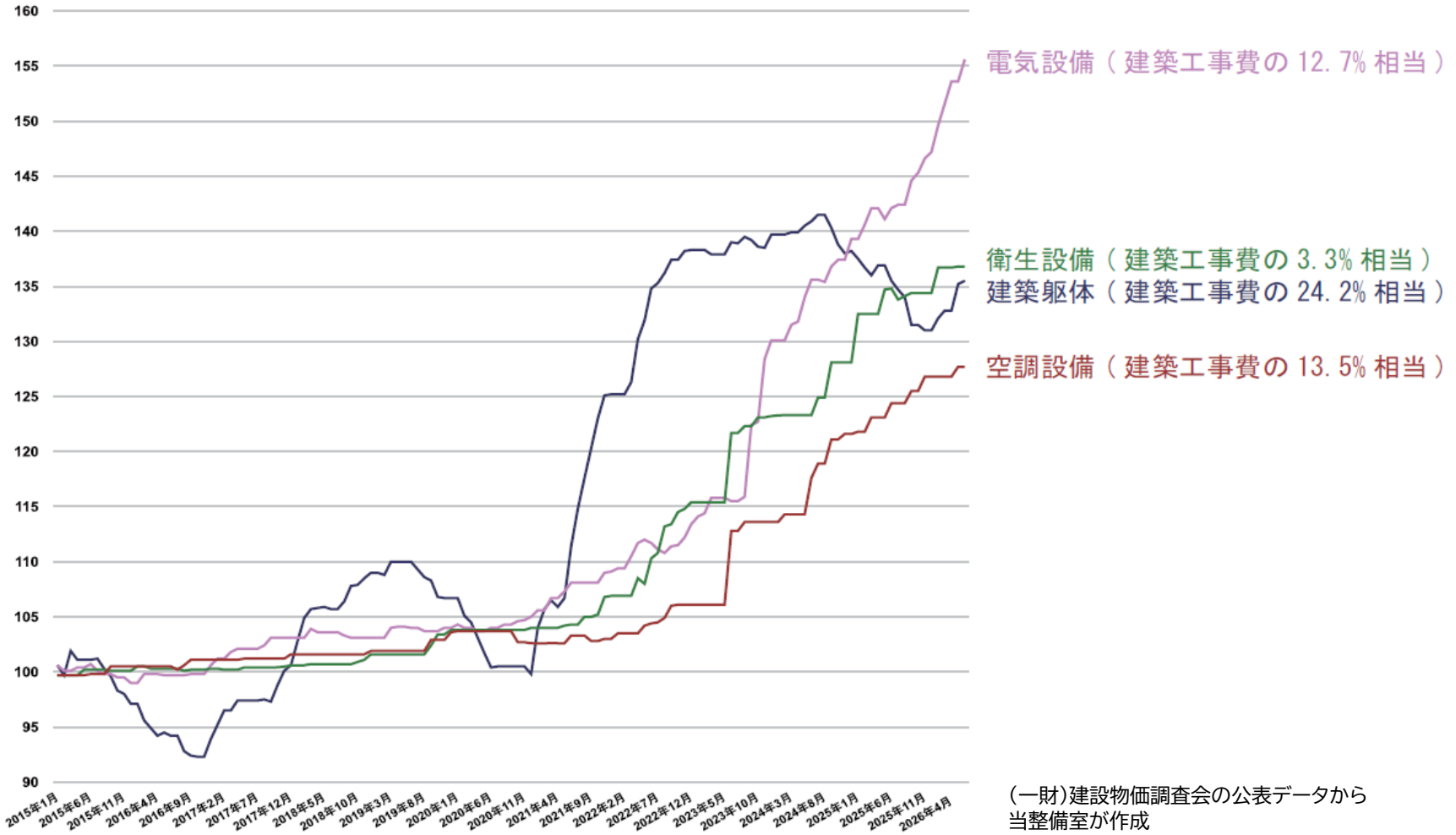
参考

- 近年の建設物価及び工事費の上昇により建設費が増加
- 各自治体では、規模や蔵書数などを変更することにより、工事費を見直し

図書館	計画時		見直し後	
門真市 （約6,500㎡／2026.5開館）	65億円 （約6,500㎡／25万冊）	→	83億円 （約6,500㎡／25万冊）	
御殿場市 （約3,800㎡／2026.7開館）	35億円 （約3,800㎡／31万冊）	→	45億円 （約3,800㎡／32万冊）	
舞鶴市 （約3,600㎡／2028予定）	30億円 （約4,000㎡／50万冊）	→	43億円 （約3,600㎡／50万冊）	計画から400㎡縮減
ひたちなか市 （約4,400㎡／2028予定）	34億円 （約5,500㎡／50万冊）	→	49億円 （約4,400㎡／40万冊）	計画から1,100㎡縮減 計画から10万冊減

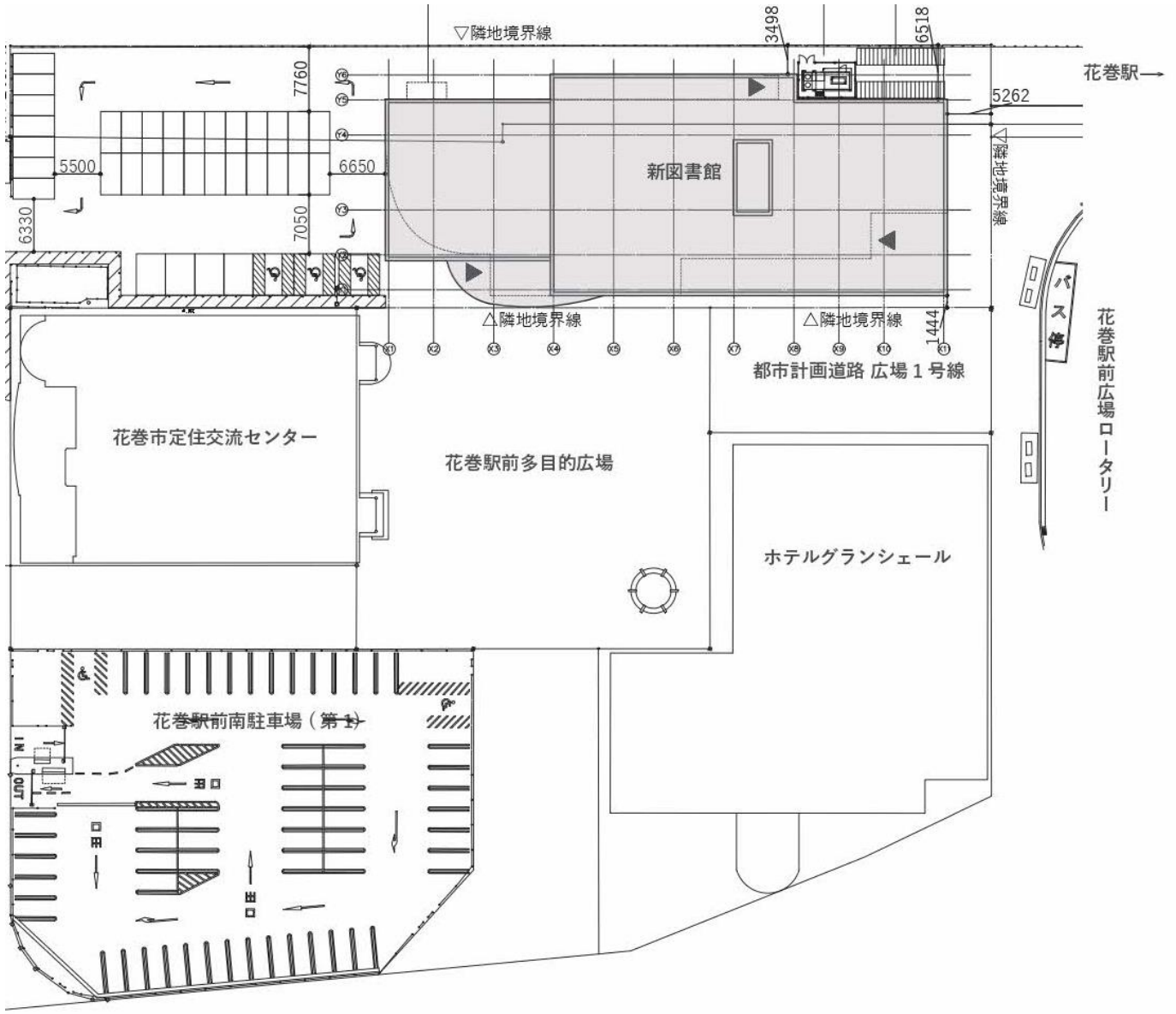
注）ひたちなか市は、工事費額

- 建築資材物価指数の工種（建築躯体・電気設備・衛生設備・空調設備）ごとの傾向
- 構成比率の大きい建築躯体は2024年末をピークに一時下降、衛生、空調設備は上昇が鈍化。
- 一方で電気設備は上昇が顕著



（一財）建設物価調査会の公表データから
当整備室が作成

配置図(案)


▽隣地境界線
3498
6518
花巻駅→
5262
△隣地境界線
7760
5500
6650
6330
7050
新図書館
△隣地境界線
△隣地境界線
1444
都市計画道路 広場１号線
バス停
花巻駅前広場ロータリー
花巻市定住交流センター
花巻駅前多目的広場
ホテルグランシェール
花巻駅前南駐車場（第１）
IN
OUT

整備スケジュール

- 整備にあたり、国の補助金を活用
- 市負担分には「合併特例債」を活用（合併特例債の期限である令和12年度の完成を目指す）

区分/年度	R7	R8	R9	R10	R11	R12
設計関係		基本・実施設計				
用地関係			用地取得（予定）			
工事関係			既存建物解体	本体工事	外構工事	開館